

## 神大法曹界の人々

### 新人弁護士のお仕事

安 永 佳 代

(弁護士、本法律研究科修了)

#### 1 はじめに

今回のいただいた執筆のご依頼は、新人弁護士の奮闘記を書いてほしい、形は「エッセイ」でも良く、気軽に読めるものを、とのことでした。弁護士経験5か月程度、さしたる文章も書けませんので、お気軽にお読みいただければ、幸甚です。

#### 2 事務所

私の所属する事務所は「弁護士法人相模原法律事務所」です。法人の一番のメリットは、支店を出せることなのですが、いわゆるおへそのない都市（中心部のない都市）相模原では、法人化して、支店を出せるメリットは大きいのです。私は、相模大野（支店）事務所におります。

全体の構成は、男性弁護士2人、女性弁護士4人（ボス弁は4名で、イソ弁2名）ですが、相模大野事務所では、ボス弁と私の女性2人です。事務員さん2名も女性ですので、女性ばかりの事務所です。おそらく、容易に想像できると思いますが、それはそれはにぎやかです。四六時中、笑い声が絶えません。また、大野事務所にいても、主事務所のボスから、様々な仕事が入ってきます。多くのボスから丁寧に指導していただけるので、新人弁護士の私にとって勉強になることが多く、大きなメリットです。

#### 3 担当事件

現在、担当している事件数は3、40件ほど。事件種類別に印象に残った事件をご紹介します。

なお、守秘義務上、前提事実に変更を加え、一部フィクションにしております。

##### (1) 一般民事事件

私の法廷初デビュー（一人で行くこと）を飾ったのが、建物明渡請求事件です。町田の1戸建ての貸家に住んでいるおじいちゃんの追い出しです。「まあ、訴訟第1回だし、連絡ないし、相手方は来ないんじゃない？」とボス、事務員さんが言うので、その気で、のこのこ法廷に行きましたら、おじいちゃん、いました。そして、すでに怒りが沸点に達しています。「なんでわしがうったえられにゃあ、ならんのじゃあ。」法廷に大声が響き渡ります。

この事件、おじいちゃんの追い出しという響きは悪いですが、とある女性の依頼です。高齢の母親が歩行困難になり、介護が必要になった。貸家のおじいちゃんに、家を出て行ってもらって、建替えて介護用住居にしたい。そこで、依頼者がおじいちゃんに相談したら、快く出て行ってくれるとのこと。安心していましたが、しかしぜんぜん出て行ってくれない、やっと次の引越し先の話がつかっても、最後になって、引越し業者さんを追い出すこと数回というおじいちゃんです。

第1回期日で、被告が当事者本人ですので、書記官さんが、丁寧に訴状を朗読して認否を問います。原告（依頼者）の親が体を悪くして歩けず介護の必要がある、とのくだりになると、おじいちゃんは、自分のことと勘違いしたらし

く「ぶじょくするなあ。わしは、健康なんじゃあ。」と大声で叫びます。見れば分かります。

その場は、なんとか熟練した書記官さんの猛獣使いのような技術で、おじいちゃんをとりなしてもらいました。しかし、おじいちゃんは、引越すつもりだが、そのためには（和解条件）、引越し先が、①家賃5万円②町田駅近く③1,2階が良い……など相当な無理難題。あとで、書記官さん「先生のデビュー戦、ハードですねぇ。」と慰められました。

物件探しは、難航しましたが、協力してくださる仲介業者さんに多大なるご迷惑をかけて、ようやく見つかりました（おじいちゃんと一緒に物件めぐりです。しかも、私は横で「まあ、この物件すてき！」なんて言って、まさに、さくら状態）。おじいちゃんも、私たちが真剣であると気づいたみたいで、さすがに観念したようです。しかし、引越し業者を追い出すおじいちゃんですから、最後まで油断禁物です。毒を食らわばの精神で、引越しまで手伝いました。そのおじいちゃんの家は、ここでは書くことが憚られる衛生状態でした。いつつくったかもわからないお味噌汁を捨てたり、排水口を掃除したりと、今でも思い出したくないことでいっぱいです。

無事、引越し終了。依頼者もよろこんでくれました。多くが訴訟外の活動でしたが、ボスの「弁護士は、訴訟で最終的に強制的に追い出せるという力を持つから、交渉に強いのであって、その真剣さが伝わる。」との言葉が印象に残りました。

## （2）刑事事件

弁護士会の研修で行った当番事件が2件とも私選となりました。その1件をご紹介します。

覚せい剤取締法違反事件です。被疑者ははじめな会社員で、仕事のストレスから、興味本位で購入して、これまで数回使用していたところ、今回はじめて逮捕されてしまったという事案です。

覚せい剤所持で逮捕されて、もちろんすぐに尿検査されますが、なんと反応がでない。初心者で打つところが静脈からずれてちゃってたみたい。本人は、「覚せい剤が効いて、ぼーっとしていい気持ちになった。」というのですが、これは、プラセボ効果というものでしょうか？

検察官と話をする、所持で起訴するが即決見込みであるとのこと。起訴後2週間ほどで裁判、執行猶予で出られますが、会社のことを考えると一早く出たいというので、保釈を請求しました。もちろん、依頼者に保釈は認められないこともあるとのリスク説明はしました。しかし、とはいっても、保釈は認められると信じていました。

翌日、裁判所から電話があり、書記官さんから「却下です。」と冷たく告げられました。もう、頭が真っ白です。呆然としている私に、後ろから事務員さんの「佳代ちゃん、そんな時にはチョコをたべなさい。」との声。

むしゃむしゃチョコを食べていると、次第に冷静になって、これは、裁判官が間違ってる。即決だから保釈しない、なんて、私が習った刑事訴訟法には載ってない、と考え直しました。ボスにも相談すると、がんばれ〜、起案は見てあげるから、とのことなので、準抗告をしてみることになりました。準抗告は、合議ですから、相模原ではできず、本庁で審理されます。

翌日、本庁に呼ばれました。めったにない機会なので弁護修習に来ていた修習生も連れて行きました。私も修習地は本庁でしたし、彼も修習地は本庁で、最近まで刑事裁判修習でした。

迎えてくれたのは、やはり顔見知りの裁判官。私と修習生の顔を見るなり、ひよこがひよこを連れて来たと爆笑。「お前らかぁ、じゃあ棄却だな。」なんて言われました。ええ、そんな、相模原は遠いんですよ!! なんて交渉して、何とか本題に。

準抗告の起案は、裁判官に丁寧な添削、講評されました。弁護士になって、書面を裁判官に添削され講評を受けたのは、私だけではないか

と思われます。いわゆる、総論部分はマニュアル系の本からそのまま引用したのですが、コテンパンに批判されました。裁判官は、こんなの当然知ってることなんだから、印象が悪いということです。事実摘示の部分は、なかなか良いとお褒めいただきました、とちょっと自慢させてください。

そして、結論は、準抗告が認められました。保釈金もこちらの主張どおり、150万円。ほっとして力が抜けた瞬間です。

#### 4 結びに代えて

以上、とりとめもなく体験談を書かせていただきました。とにもかくにも、弁護士のお仕事は色々な意味で、面白いです。人によっては修習時代が一番良かったなんていう弁護士もいますが、私はぜんぜん違いました。これもボスを始め周囲の素晴らしいサポートがあるからこそだと思いますし、このような環境に恵まれて大変幸運なことだと思っております。